

令和7年度 霞台小学校 学校評価シート

< 学校経営方針の重点 > 1 豊かな心の醸成 2 確かな学力の向上 3 健やかな体の育成

学校経営方針	具体的な内容	肯定的評価				評価	分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性	
		教職員	保護者	児童	平均				評価	コメント		
1 豊かな心の醸成	「あじみこし」の励行 「いじめ防止」・特別支援教育	「あじみこし」(あいさつ、時間を守る、みだしなみ、言葉遣いを含む)に全校体制で基盤的な生活習慣の定着に取り組む。	100	74.3	90.4	88.2	A	一定の成果が出ている。生活指導の重点目標を「気持ちの良いあいさつ」としているが、児童会が中心となりあいさつ運動を行ったり、教員が率先垂範したりすることにより気持ちの良いあいさつが返ってくる。特に6年は、校外学習でもきちんと挨拶ができた。	次年度の生活指導の重点目標を「時間を守る」か「言葉遣い・心遣い」にする。	A:7 B:0 C:0 D:0	挨拶や活動の主体性自律性が評価されています。児童会中心で活動が進められ、落ち着いた雰囲気を感じられます。低学年での言葉遣い指導が今後の課題です。	令和8年度の重点目標をきもちのよい挨拶を含めて「言葉遣い、心遣い」として取り組む。
		校内特別支援委員会を定期開催し、支援を必要としている児童について共通理解を図り協働した対応をすすめる。生活指導協議会で情報共有し、多方面からの支援を行う。保護者・児童にむけて障害理解教育を推進する。	90.5	74.3		82.4	B	支援を必要としている児童について担任だけで対応するのではなく、学年・学校で組織的に対応している。ケース会議や校内委員会、生活指導協議会において情報の共有や対応策の調整等を行っている	引き続き組織的に対応していく。年に複数回、児童に対して特別支援教育理解の時間を設ける。	A:3 B:3 C:0 D:0	保護者との連携が重要で、特別支援の計画的実施が評価されています。安心して学べる環境づくりが進み、ゆうやけランドが支援オプションとして有効です。	保護者・関係機関との連携をしながら、保護者とも協働した支援を行うとともに、障害理解教育の充実を図る。
		いじめの未然防止に向けていじめに関する授業を各学年で年間3回行い、年間4回はいじめに関するアンケート調査を行う。事案発生の際は迅速に組織的に対応する。	100	75.6	92.7	89.4	A	日常的な児童の観察やいじめアンケートをもとにした聞き取りや指導、いじめ対策委員会での情報共有や対応方針の決定を行い、組織的な対応を行ってきた結果、重大事態の案件は0であった。	引き続き、いじめは絶対に許さないという姿勢で早期発見・早期組織的対応を行っていく。	A:6 B:1 C:0 D:0	いじめ防止の取り組みが評価されています。早期発見と組織的な対応が進み、今後は感情のもつれに注視していくことが求められます。	いじめの未然防止とともに、いじめを見逃さないこと、早期発見と早期対応を組織で行う。
2 確かな学力の向上	学力・体力の定着・特別活動の充実	指導のねらいを明記した週の指導計画を確実に作成実施させ、系統的な学びを進める。朝時間に基礎学力形成を目的とするスタディタイムを全学年で実施する。年間通してステップアップ教室(放課後補習教室)を実施する。	95.2	75.6	95.8	88.9	A	指導のねらいを明記した週案の作成は、全教員が行い90%の教員は金曜日に提出している。スタディタイムは全学年実施した。内容については個に応じた学力を高める学習を行うことが適切であり、クロームブックの活用が考えられる。	クロームブックを有効活用してC層・D層の児童の底上げを図ったり、校内研究を通して授業力向上を図ったりしていく。	A:7 B:0 C:0 D:0	外国語学習の強化が期待されています。基礎学力形成とICT活用の進展が評価され、家庭学習が学力向上につながっています。	ICT活用は情報モラルの育成とともに、効果的な活用をする工夫をする。
		一校一取組(縄跳び週間)や休み時間の外遊び奨励を通して、日常的に運動に親しむ環境を作り、体力向上を図る。	100	75.6	93.2	89.6	A	多くの担任が中休みには外に出て児童と一緒に体を動かす姿が見られた。児童は、縄跳び週間になわとびカードを活用し縄跳びに挑戦していた。体育の授業力向上を通して児童の体力向上を図る必要がある。	OJTで体育の授業力向上を図ったり、継続的に行間体育を行ったり、放課後の外遊びを奨励したりして体力向上の方策を進めていく。	A:6 B:0 C:0 D:0	体力向上とともに、児童と教師のコミュニケーションが良好で、運動を通じた楽しさを感じられる取り組みが進んでいます。	一校一取組、外遊びの奨励は児童にもよい効果があるので取り組みを継続する。
		特別活動(運動会、展覧会、卒業式、宿泊行事、たわわり活動等)は児童にとって価値のある学びを創り出すために計画・立案・実施する。今年度は特に50周年行事を通して実施する。	100	74.4	86.8	87.1	A	特活については、ねらいをはっきりとして児童主体の活動を行うよう工夫した。委員会の名前も活動の様子分かるもの考えた。周年行事についても児童が主体であり主人公であることを意識して活動させた。	次年度は、周年行事が無くなるが引き続き児童が主役になる特別活動を進めていく。	A:6 B:0 C:0 D:0	児童主体の活動が成功しており、特に50周年の行事での自信や達成感が成長に寄与しています。今後も意識改革を進めたいとのこと。	児童主体、児童を主語に、を言葉に、実りある活動を創っていく。
3 健やかな体の育成	安全・安心な環境づくり 家庭・地域との連携と情報発信	学校公開・授業参観の開催、年2回の学校評価の実施、月1回発行の学校だよりや週1回のHPの更新により、学校情報をきめ細かく発信し、保護者・地域との連携を深める。	100	75.6	91.4	89.0	A	学年だよりを学校だよりの裏面にしたが、HPの更新や学年ブログ等の活用で、学校の情報発信については保護者から十分な評価を得られた。教員からも発信を積極的にしている意志を感じる。	引き続き積極的に情報発信を学校として、学年として行っていく。	A:7 B:0 C:0 D:0	学校情報発信や地域連携が評価され、学校公開やHP更新により学校の様子が伝わりやすく、地域資源を活用した活動継続が期待されています。	学校の情報はHP発信、授業公開を通して、地域と保護者と学校の連携強化を図る。
		セーフティ教室や交通安全教室を開催するとともに、地域ボランティアの登校見守り、パトロールの実施等により、登下校時の交通事故や校外での犯罪被害防止に努める。	95.2	67.9	97.2	86.8	A	セーフティ教室や交通安全教室で学んだことについて、日常の生活の中で生かすことが十分でないように感じる。	引き続き登下校の安全が図れるように、学級指導やセーフティ教室・安全指導教室等を通して交通安全の意識を高める。	A:5 B:1 C:0 D:0	児童の安全対策の強化が課題です。セーフティ教室や交通安全指導の計画的実施が進んでいます。地域の見守りが重要との指摘です。	登下校の安全を保護者とともに進める。学校の安全指導を計画的に行うことで児童の意識を向上させる。
		子ども家庭センターや立川児童相談所等の外部機関との連携やこども支援委員会、特別支援校内委員会、特別支援教育コーディネータ、教育支援員、スクールカウンセラーの活用を図り、全ての児童が安心して学校生活を送ることのできるようにする。	100	76.9	94.2	90.4	A	子供家庭支援センターや児相等の外部機関からの問い合わせ等の連携は行っているが、保護者がそれらの機関と連携していない。全ての児童が安心して生活を送るためには必要であると考え	外部機関と連携を図り、組織的な対応を図りすべての児童が安心・安全な学校生活が送れるようにする。	A:6 B:0 C:0 D:0	支援が必要な児童への対応が組織的に行われており、今後も安心して学べる環境づくりが必要です。ゆうやけランドとの連携強化が求められています。	組織的対応は今後も続けるとともに、保護者や関係機関との連携によって児童の健全育成を図るよう